

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの人格を尊重し生命と人権を守る学校
- ・知識・技能及び思考力・判断力・表現力の向上、学びに向かう力の醸成により、校訓の「明るく・正しく・たくましい」児童生徒を育む学校
- ・本校がこれまでに培ってきた特別支援教育の歴史と伝統に裏付けされたスキルを継承し、時代のニーズに応えられる学校

2 中期的目標

1 生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実

(1) 普通課程、生活課程に在籍する生徒の障がい特性をふまえた教育課程の編成及び効果的で適切な運用とクラス、学年を中心とした学校生活の充実

ア 担任力をさらに強化し、複数担任制による教員相互の連携を密にし、クラス担任が主力となって生活支援や指導、進路支援や指導をする。

イ キャリア発達支援の観点を示した表を活用した授業を充実する。

ウ ユニバーサルデザインを活用した学校、教室環境の整備をすすめ、またLGBTにも配慮した教育の推進をはかる。

エ 学年団（普通課程、生活課程）の運営の充実のため、各課程の学年主任、首席の連絡会議を設ける。

※ 担任全員がクラスの生徒一人一人の特性を把握し、教育自己診断・保護者用アンケート「学校は子どもの障がいを理解している」「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動をしている」（H29年度は肯定的評価が双方80%台）を保護者満足度90%以上をめざす。

○ アンケートの結果は、「障がい理解」92.2%、「ニーズを踏まえた教育活動」93.9%であった。

(2) 堺支援独自のキャリア教育の推進

ア 生徒・保護者の立場にたって進路支援を充実させる。

イ 地域関連機関と協力、協働して支援体制をつくる。

ウ 「働くこと」を意識した実践的な体験学習を実施する。

※ 「自己選択、自己決定するための進路指導」を徹底し保護者満足度85%以上をめざす（H29年度80%）

○ アンケートの結果は、90.4%であった。

2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり

(1) いじめゼロへ向けての生徒指導體制の構築

ア いじめ防止に向け、生徒の状況把握につとめ、学年をこえての連携体制をつくる。また養護教諭と教員の連携を密にする。

イ 生徒指導部とPTAの連携でいじめ防止活動、スマホ安全利用など、生徒が安心して学校生活を送る取組みをすすめる。

※ 「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる（81%）を90%にする。

○ アンケートの結果は、91.9%であった。

(2) 公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実

ア 自分が学ぶ場所は自分たちできれいに保つ気持ちを養うために、期末、学年末に校内清掃を実施する。

イ 朝のあいさつ運動を継続し、生徒会選挙を通じて政治的素養を養う。

※ 社会ルールを守る態度を育てることに関しての保護者満足度を90%に近づける。

○ アンケートの結果は、92.5%であった。

(3) 学校の危機管理体制の充実

ア 災害訓練を徹底し、生徒の保護者引き渡し訓練などよりいっそう実践的な訓練を行うとともに、危機管理体制を強固なものとする。

※ 災害訓練など安全へのとりくみの保護者満足度を80%以上にする。

○ アンケートの結果は、94.9%であった。

3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成

(1) 地域と連携した教育の推進と堺の歴史や文化に親しむ

ア 「さかいホテルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、ビオトープ等を活用した新たな環境教育に取り組む。

イ 堺市立障害者スポーツセンターと連携し、教員職員の交流、教員の障害者スポーツの専門性向上、スポーツセンター施設活用などを積極的に推進し、障がい者スポーツの振興と生涯スポーツへの入り口とする。

(2) 次世代を担う教員の育成

ア 本校の状況や地域性等をふまえ、バディ制度を活用した、実践的な堺支援版「初任者研修」を充実させる。

(3) 学校からの積極的な情報発信

ア 児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 10 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 アンケート項目数 児童生徒用 9 項目、保護者用 29 項目、教職員用 42 項目</p> <p>2 回収率 児童生徒分 = 65.1% (昨年度より 6.8 ポイント増) 保護者分 = 56.1% (昨年度より 4.6 ポイント増) (大手前分校 = 44% 昨年度より 17 ポイント減) 教職員分 = 100% (昨年度と同じ) (大手前分校 = 96% 昨年度より 31 ポイント増)</p> <p>3 結果と分析 回答は児童生徒用では A「たいへんたのしい、たくさんある、よく対応してくれている」、B「たのしい、ある、対応してくれる」、C「あまりたのしくない、あまりない、あまり対応してくれない」、D「まったくたのしくない、まったくない、まったく対応してくれない」とし、集計では、A+B=肯定的評価、C+D=否定的評価としている。 保護者、教職員では A「よくあてはまる」、B「ややあてはまる」、C「あまりあてはまらない」、D「まったくあてはまらない」とし、A+B=肯定的評価、C+D=否定的評価としている。</p> <p>(1) 児童生徒の結果 ①全体的な傾向 回収率は、過去 3 年間低下傾向であったが、本年度は増加した。 ②肯定的評価の項目 (A+B が 90%以上) 「学校行事は楽しい」の項目が 90%であった。 ③課題のある項目 (C+D が 20%以上) 「学校の楽しさ」「教員への相談のしやすさ」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」に関する項目が 20~28%であった。</p> <p>(2) 保護者の結果 ①全体的な傾向 回収率が徐々に下がってきていたが、本年度は少し増加した。 肯定的評価が増加している。 特に 10%以上増加した項目は、次の 3 つである。 「授業が楽しく、わかりやすいと言っている。」「いじめについて真剣に対応してくれる」「進路や職業に適切な指導を行っている」 ②肯定的評価の項目 (A+B が 90%以上) 「学習内容・学校生活・評価等に係る学校からの情報提供」、「適切な相談対応」「給食」「災害についての情報提供」「授業参観、学校行事」「子どものプライバシー保護」「個別の教育支援計画」に係る項目であった。 ③課題のある項目 (C+D が 20%以上) 20%以上はなかったが、一番評価が低かったのは、昨年同様の「学校の施設・設備」に関する項目であった。(19.1%)</p> <p>(3) 教職員の結果 ①全体的な傾向 本校の回収率は 100%を継続している。また、大手前分校の回収率も 96%と昨年より 31%増加している。 課題となる項目が昨年度より減少し(12←15)、昨年と同様の課題についても、C+D率が少しずつ減少している項目が多い(9/12)。 ②肯定的評価の項目 (A+B が 90%以上) 「指導内容の工夫改善」「保護者の願いを活かす教育」「自立活動の指導」「生活指導での家庭との連携」「魅力的な学校行事へむけての工夫改善」「子どもの人権尊重」「安全指導の徹底」「いきとどいた給食」「学校教育の推進」など 16 項目が 90~98%であった。 ③課題のある項目 (C+D が 20%以上) 「教育活動の評価と次年度への生かし」「道徳教育の在り方」「教材・教具・備品の適切な配置と活用」「清掃活動・指導」「会議を含めた教職員間のコミュニケーションの在り方」「学校組織と適材適所への人材配置」「施設・設備」「PTA 活動への参加」「経験の浅い教員の育成」「職員の自主的・自発的研修」の項目が 20~35%であった。 以上の結果を教職員全員で共有するとともに、具体的な策を講じ実践し、次年度以降の学校力の向上を推進していく。</p>	<p>1 開催日 ・第 1 回 = 平成 30 年 6 月 26 日 ・第 2 回 = 平成 30 年 12 月 17 日 ・第 3 回 = 平成 31 年 2 月 25 日</p> <p>2 協議会委員から出された意見 ○教育活動について 1 “課題設定ソフト”(自立活動領域のアセスメント及び課題設定に寄与するパソコンソフト)を活用した自立活動指導について ・“課題設定ソフト”の製作は、ICF(国際生活機能分類)の生活機能構造モデルを踏まえ、且つ大学教授との連携によるものであることから、教育活動に有効なソフトであることを認識した。 2 “視線入力システム”を用いたコミュニケーション力向上に係る指導について ・本システムを用いた指導の対象児童生徒の状況は、どのようになっているのか。 → 上肢でのキーボード入力が容易でない児童生徒を対象としており、今年度は約 30 名余りに指導を行っている。 本システムを用いての文字によるコミュニケーションを最終目的としている。 ◆“課題設定ソフト”“視線入力システム”の活用による指導について、今後の成果を大いに期待している。</p> <p>3 キャリア教育について ・卒業後 3 カ所の事業所を利用しているが、学校からそれぞれの事業所に対して「移行支援計画」を用いての引継ぎがあり、事業所利用が円滑にしている。今後も、「移行支援計画」のより充実した活用を推進していただきたい。 ・関係機関と必要に応じてケース会議を開催し、より連携を深めていただきたい。</p> <p>○学校教育自己診断の結果等について ・“学校経営”に関する設問領域において、幾つかの課題が見受けられるが、本校の学校運営全体としては、良い方向にむかっているのではないかと。 ・大手前分校において、大手前整肢学園との連携や感染症対策については、課題が大きいのではないかと。 ・教職員の提出率について、本校は 100%であるが大手前分校は 100%に達していない、自らの職場改善を目的とした取組に臨まない教職員がいることは、甚だ遺憾である。また、提出しない理由について、協議会委員が納得できる説明が望まれる。</p> <p>○地域との連携について ・学校におけるカワナ(ホタル幼虫の餌)飼育・竹灯籠製作を背景とした「堺ホタル・プロジェクト」(堺仁徳ライオンズクラブ主催)への参加は、児童生徒の環境教育及び地域貢献意識涵養の観点からも有意義である。 ・地域自治会との連携による防災訓練の、今後の継続と深化を期待している。 ・田辺大根や外部での販売活動に関してもっと情報提供してほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実	<p>(1) 生徒の障がい特性をふまえたクラス、学年を軸とした学校生活を充実させる。 ア 担任力、学年団力の充実をはかる。 イ キャリア教育を授業で活かす。 ウ ユニバーサルデザインを活用した環境整備をすすめる。 エ 普通課程、生活課程の連携をすすめる。</p> <p>(2) 堺支援独自のキャリア教育を充実させる。 ア 進路指導、事業所合同説明会の充実 イ 大阪地場の産品に興味をもち、自ら作り自ら売る喜びを体験する。</p> <p>(3) 生徒の学びを充実させるため、教員の教材使用方法の合理化をすすめる。</p>	<p>(1) ア クラスでは、生徒の状況の把握を徹底し、また進路指導なども共有する。 学年団は主任がクラス担任1名と毎日連絡を取り合う。 イ キャリア教育の観点で研究授業をもつ。 ウ 視覚支援を標準提供する。</p> <p>(2) ア 事業所説明会での話や、進路情報を的確にわかりやすく保護者に伝える工夫をする。 イ 府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培品種を増やし、購買意欲を増すような工夫を加え堺支援の職業(園芸)の特産品にし、職業の学習を中心に、校外のアンテナショップに定期的に出店する。</p> <p>(3) 教具、支援教材の共有化をすすめる。</p>	<p>(1) ア クラスでは毎日担任連絡会を行う(100%実施) 学年主任は毎日学年クラス状況を収集して把握する(100%実施)</p> <p>イ 各学年で1回実施。</p> <p>ウ 1日のスケジュールを視覚支援したものを全クラスに掲示するとともに、各クラスで生徒の特性に応じた視覚支援を1つ以上おこなう エ 本校経験3年～6年の教員のうち各学年2名を各課程で入れ替える。</p> <p>(2) ア 保護者向け進路プリントでは視覚支援を積極的に取り入れ、難しい用語には解説を加えるよう抜本的に改定する。 イ 「田辺大根」などを栽培し、野菜特売で地域の方々に販売する。また堺東商店街での「ガシ横」に出店し、老人ホームでの販売で就労意欲を高める。</p> <p>(3) 教科ごとに教具、支援教材を共同作成や購入し、どの教員でも用いることができる。</p>	<p>(1) ア それぞれのクラスで連絡会を100%毎日行い、情報共有できた。 学年主任の状況把握も100%毎日できた。(○)</p> <p>イ キャリア教育に特化した研究授業は実施できていないが、授業年間シラバスにキャリア教育の観点を明示することはできている。(△)</p> <p>ウ 各クラスでそれぞれ工夫して、1つ以上の視覚支援を行った。(○)</p> <p>エ 各学年2名を普通課程と生活課程で入れ替えた。また、各教員が両課程の授業を担当するように取り組んだ。(○)</p> <p>(2) ア 進路だより等の保護者配付プリントでは、用語解説やふりがななど、わかりやすいように工夫をした。(○)</p> <p>イ 田辺大根の種まきや収穫には小中学部の児童生徒も参加し、学校全体で取り組んだ。収穫後、11月の学習発表会で販売をし、自分たちが栽培したものが商品として購入してもらえることで就労意欲の向上に繋がった。また、ガシ横マーケットには2回出店し、老人施設での販売も1回実施した。(◎)</p> <p>(3) 教科別で学習プリントや教材を保管し、だれでも使用できるようにした。また、指導案も共有ホルダーに保存している。(○)</p>
2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり	<p>(1) いじめゼロへ向けての生徒指導体制の構築 ア いじめゼロに向け、生徒指導体制、職員連携体制を構築する。</p> <p>イ PTAとの連携を密にし、学校と家庭で生徒を見守るネットワークづくりを推進する。</p> <p>(2) 公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実 ア 自分が学ぶ場所は自分たちできれいに保つ気持ちを養う。 イ 朝のあいさつ運動を継続し、生徒会選挙を通じて政治的素養を養う。</p> <p>(3) 学校の危機管理体制の充実 ア 実際的な訓練を行うとともに、危機管理体制を強固なものとする。</p>	<p>(1) ア①生徒・保護者からの情報を得る。 ②生徒指導部は生徒の状況の把握のため校内各部署の連携を積極的にすすめる。</p> <p>イ 管理職はPTA役員と校内の生徒指導について諸問題について共有し、保護者とともに学校全体で生徒の安全・安心を守る。</p> <p>(2) ア 定期的に校内清掃を実施する。 イ 生徒会活動の活性化を推進する。</p> <p>(3) ア 生徒、保護者、教員のすべての防災意識を高め、いざという時の実際的な行動にむすびつける。</p>	<p>(1) ア①毎学期に生徒・保護者に「いじめ」アンケートを実施し、生徒間でいじめやその萌芽がないかを把握する。 ②生徒指導部、養護教諭、部主事の連絡会議を月1回行い、生徒の実態を把握する。</p> <p>イ 月1回のPTA役員会の時に、管理職は高等部役員と連絡会をもつ。</p> <p>(2) ア 期末、学年末に校内清掃を実施する。またPTAと一緒に校内清掃を年1回実施する。 イ①あいさつ運動を継続するとともに、生徒会が堺支援学校をよくしていく提言をだす。 ②生徒会選挙では堺市選管から投票用の器材を借りて行う。 ③堺市選管の関係者からの選挙について生徒向け講演を実施する。</p> <p>(3) ア①生徒の保護者引き渡し訓練を年1回おこなう。 ②校外学習では防災センターへ必ず行く。</p>	<p>(1) ア①アンケートの結果、けんかやトラブルといった事案はあり、担任からの聞き取りや指導行ったが、いじめと認定される事案はなかった。(○) ②年9回実施し、共通理解や対応を行った。(○)</p> <p>イ 全体で共通理解が必要な事案については毎回周知を行ったが、高等部役員だけに情報共有するような事案はなく、開催していない。(△)</p> <p>(2) ア 定期的に校内清掃を実施し、環境整備の意識付けができた。また、PTAとの校内清掃は9月と2月に2回実施した。(◎)</p> <p>イ①あいさつ運動を継続することで、定着がみられた。また、高等部の生徒会主催で、昼の放送を初めて実施しリクエスト曲を流すなど楽しい学校作りに取り組んだ。(◎)</p> <p>②前期・後期の生徒会選挙において、堺市選管から機材等を借りて実施し、選挙への意識付けを行った。(○)</p> <p>③選挙についての講演は、日程調整ができて実施できていない(△)</p> <p>(3) ア①災害時の緊急引き渡し訓練を2月3日の休日参観の下校時に実施した。(○) ②防災センターへの校外学習を予定していたが、改修工事のため日程調整も試みたが、実施できなかった。(△)</p>

府立堺支援学校

<p>3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成</p>	<p>(1) 地域と連携した「環境教育」の推進と堺の歴史や文化に親しむ ア 堺市と「さかいホテルプロジェクト」「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、ビオトープ等を活用した活動。 イ 堺市立障害者スポーツセンターと連携協働し、障がい者スポーツを楽しむ習慣をつくる。</p> <p>(2) 次世代を担う教員の育成 ア 実践的な堺支援版「初任者研修」を充実させる。</p> <p>(3) 学校からの積極的な情報発信</p>	<p>(1) ア 「さかいホテルプロジェクト」への協力。 「世界遺産」への指定に向け「仁徳陵清掃」への参加。 イ①堺市立障害者スポーツセンターと組織的、永続的に連携し、相互の教員、職員の交流をはかる。 ②本校の教育への専門的アドバイスをもち、スポーツ、レクレーションの活性化をはかる。</p> <p>(2) ア バディ制度を活用し、初任研で堺市立スポーツセンター見学研修をくみ入れる。</p> <p>(3) ブログ、保護者配布プリントの充実とわかりやすさの向上。</p>	<p>(1) ア 「コロナ」の養殖を授業に取り入れる（指導案作る） 「仁徳陵」周辺の清掃活動を年間授業計画にいれる。ビオトープ等を活用した新たな環境教育に取り組む。 イ①准校長、首席、体育科教員と堺市立障害者スポーツセンター所長、職員からなる「堺支援・障害者スポーツプラザ連携協議会」を立ち上げ、年4回の協議会を行う。 ②「ボッチャ」を高等部の全生徒が知るよう授業にとりいれるため、教員向け研修、授業へのスポーツセンター指導員が参加する。</p> <p>(2) ア 初任者全員が専門性が高まったとの実感を得る。スポーツセンター見学研修年1回実施。 (3) ブログは年間40回以上。情報提供について保護者満足度90%以上。</p>	<p>(1) ア 指導案を作成し、コロナの養殖に授業で取り組んだ。 年間授業計画に基づき、校外の清掃活動を実施した。(○)</p> <p>イ①連携協議会を4月に開催し、高等部主催による教職員を対象としたスポーツセンターとの連携研修を年4回行った。(○)</p> <p>②「ボッチャ」の体験研修を夏季休業中にセンターで行ったが、授業へのセンター指導員の参加は、調整が難しく実施できなかった。(△)</p> <p>(2) ア スポーツセンターとの連携研修として、見学も含めた研修をセンター2回実施した。(◎)</p> <p>(3) 3月1日現在で42回のブログ更新ができています。ホームページでの学校の情報提供に関する保護者満足度は、82%であった。(△)</p>
---	---	---	--	--